

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県東郷町大字春木字白土1-1884 (電話) 052-807-6000		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月18日	評価確定日	平成19年9月11日

## 【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 2~3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000・30,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成29年7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	77 歳	最高	91 歳
協力医療機関名	日進おりど病院・山寺歯科医院・和合セントラルクリニック				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中にホームは位置しており、老人保健施設やデイケアセンターが隣接している。ホームの1階はクリニックで2、3階がグループホームとなっている。医療面において充実しており入居者、家族の安心につながっている。居室はマンション造りで、広々としており、キッチンやトイレ、浴室が完備されている。生活の主体は入居者であり、生活に制限や制約はせず、毎日楽しく笑顔でその人らしく過ごしてもらえるよう「第2の我が家」を目指し、管理者、職員が一丸となって取り組んでいる。運営推進会議がきっかけとなり、地域との交流や町との連携が深まり、今年の夏に、中学生の福祉体験ボランティアを受け入れ、入居者は中学生との交流を楽しんだ。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については、管理者や職員は理解している。前回の評価については、全職員で話し合い、勉強会の実施について職員から声があがり、現在実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各職員が取り組み管理者が取りまとめ、比較できるよう、取りまとめた自己評価を全職員に配布した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は3カ月に1回開催しており、事業報告や入居者の近況報告をしている。メンバーからも積極的に質問や意見が出され、ボランティアの活用について意見をもらい、ホーム便りに掲載し協力を求めた。外部評価についても説明しており、目的や意義について話した。会議がきっかけとなり、中学生の福祉体験も実施された。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時には、居心地よい雰囲気づくりを大切にしており、必ず声をかけ、要望や意見を聞くようにしている。年1回、家族同士が交流する機会を設けている。家族から出た意見は皆で話し合い、検討し対応している。定期ではないが、ホーム便りの中に、外部の苦情相談窓口のことを案内している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との交流を積極的に取り組んでおり、地域で開催される夏祭りや盆踊り等に参加している。近所の人から竹をもらい流しそうめんを行った。入居者に好評でとても喜ばれた。その他にも野菜をいただいたりしており、ホームからは旅行に行ったお土産を入居者と一緒に届けている。地域のお店を利用することで、馴染みの関係ができています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和き合いあいと暮らせる家」として、ホームは第2の我が家と考え、その人らしい生活や個性を尊重し価値観を大切にしている。家族との関係も大切にし、何よりも入居者の笑顔を増やすよう職員は日々取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。管理者からは、折に触れ、具体的な例をあげながら、理念に立ち戻り考えるよう職員に話しをしている。理念は、玄関やリビングに掲示され目につくようになっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を積極的に取り組んでおり、地域で開催される夏祭りや盆踊り等に参加している。近所の人から竹をもらい流しそうめんを行った。入居者に好評でとても喜ばれた。その他にも野菜をいただいたりしており、ホームからは旅行に行ったお土産を入居者と一緒に届けている。地域のお店を利用することで、馴染みの関係ができています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、管理者や職員は理解している。自己評価は、各職員が取り組み管理者が取りまとめ、比較できるよう、取りまとめた自己評価を全職員に配布した。前回の評価については、全職員で話し合い、勉強会の実施について職員から声があがり、現在実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は3カ月に1回開催しており、事業報告や入居者の近況報告をしている。メンバーからも積極的に質問や意見が出され、ボランティアの活用について意見をもらい、ホーム便りに掲載し協力を求めた。外部評価についても説明しており、目的や意義について話した。会議がきっかけとなり、中学生の福祉体験も実施された。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町には、ホームから積極的に情報提供をしており、ホーム便りを持って行ったり、年末には利用状況等を報告している。相談に対しては、アドバイスをもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「和合の家だより」を送り、入居者の様子やホームの行事について報告している。家族の訪問時には、入居者の近況報告をしている。訪問が難しい家族には、入居者の様子を記した手紙をホーム便りと一緒に送付している。宿泊する家族や食事を一緒に摂る家族もあり、家族との良好な関係がうかがえる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時には、居心地よい雰囲気づくりを大切にしており、必ず声をかけ、要望や意見を聞くようにしている。年1回、家族同士が交流する機会を設けている。家族から出た意見は皆で話し合い、検討し対応している。定期ではないが、ホーム便りの中に、外部の苦情相談窓口のことを案内している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はほとんど無く、職員は全員常勤である。離職する場合には、入居者に説明し理解してもらえるよう努めている。新人職員は、慣れるまで馴染みの職員につき、入居者にダメージがないよう配慮している。管理者は年1回職員と個人面談を行い、話しを聞いている。職員の休憩時間を30分程、確保している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については、職員が順番に受講できるようにシフトを調整する等、配慮している。受講した職員は、研修報告書を提出し、カンファレンス時に報告している。資料はコピーを取り、全職員に配布される。併設する老人保健施設での勉強会にも職員は参加している。ホーム独自でも勉強会を実施している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>愛知県グループホーム連絡協議会に加入しており、相談委員会に参加し、意見交換をしている。職員は研修や委員会にも参加している。管理者は同じ町内のグループホームと連絡を取り、相談や情報交換する機会を設けている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学は随時受け付けている。体験入居は行っていないが、今後は視野に入れていきたいと考えている。申し込み後は、ホームに来てもらい管理者、職員が面談を行い情報を収集し、本人の状況を把握するよう努めている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>できないことを支援するという姿勢で、本人のできることには職員は手を出しすぎないように、声かけや見守りをしている。日常生活の中で、入居者から職員は生活の知恵を学んでいる。梅干しやゆかり、あられの作り方、料理や裁縫、畑仕事等を教えてもらいながら共に助け合い生活している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>理念に基づき、入居者を受容することから始め、その人の個性や価値観を大切にしている。計画作成担当者が入居者と1対1で話す時間をつくり、さりげなく本人の思いや意向を聞いている。新しい情報が得られた場合は、申し送り時に情報を共有し、アセスメントシートに追加される。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントは、センター方式を使用している。入居時に管理者が入居者と家族と面接し、仮の介護計画を作成する。その後、計画作成担当者が約1カ月かけてアセスメントを取り、職員同士の申し送りや日誌等で評価し、短期目標や長期目標を決め介護計画を作成している。また、入居者や家族の希望も聞き介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の短期目標に合わせて3カ月毎に見直しがされている。カンファレンスでの話し合いや日々のカルテ、申し送り、日誌、本人の話している言葉等から情報を収集している。状態に変化が生じた場合は、随時見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者や家族の状況を考慮して通院介助、往診を支援している。併設する老人保健施設の行事やデイケアセンターに職員と一緒に参加している。デイケアセンターの利用者があそびに来ることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期健診は年1回、町の無料検診にあわせて、インフルエンザの予防接種やCTの検査をしている。その時異変があった場合は、医師から家族に連絡が行くようになっている。かかりつけ医の場合は家族が付き添って行くが、家族との情報交換は行っている。歯科については毎週往診がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について入居時に家族に説明をしている。入居者の重度化に伴い管理者が中心となり、医師に相談しながら家族との連携を図り、職員とも話し合い、できる限りホームで対応できるよう努めている。医療連携体制加算は受けていないが、医療機関との協力体制が確立しており、1階はクリニックで、併設する老人保健施設の看護師の協力も得られている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人でプライバシーマークを取得している。食事の時間におしゃべりをして食事が進まない入居者には、側に行き「ご飯を一口食べましょうか。」とさりげなく声をかけ、プライドを損ねないように対応している姿が見られた。情報の漏洩防止にシュレッターを利用している。入居者、家族に対して、ホーム便りに写真の掲載や名前を載せることについて入居時に同意をもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することなく、入居者一人ひとりのしたいこと、食事の準備から後片付け、併設のデイケアセンターで行われる書道、折り紙、生花等に自由に参加している。また、散歩に行ったり、草むしり等、入居者が主体となって暮らせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者全員に希望を聞いて立てている。材料が足りない時には、近くのスーパーに入居者と一緒に行き出しに行っている。入居者の気持ちを大事にしながら調理を進め、食材の切り方、後片付けの一連の作業に入居者の力が発揮されている。入居者と職員と一緒に食事を楽しく食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は14時頃から入居者の希望に沿って一人ずつ入っている。浴室の前の棚に名前が大きく書かれた籠が用意されており、各入居者が着替えを入れている。できない入居者には職員と一緒に準備している。ほとんど毎日入浴しており、職員は沐浴剤を季節毎の替わり湯にし工夫されている。併設する老人保健施設の機械浴を活用する時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は調理をする方、花を生ける方、小物を縫う方、買出しをする方、菜園の草取りをする方等、それぞれの場に合った力を出せる場面づくりがされ、活力を引き出す支援をしている。また、誕生会では、生まれた日に手づくりのケーキでお祝いされ、楽しみごとの一つになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は散歩、敷地内の畑の草むしり、ゴミ出しなどを通して自由参加で行われている。また、気分転換やストレスの発散に、お正月には新年会でカラオケ、バーベキューは年4回、花見、七夕等、外食も兼ねて行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8時から19時まで玄関は常に解放されており、全ての職員に鍵をかけない暮らしの大切さを話し、周知されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、消火訓練は、年2回入居者を交えて実施されている。避難誘導図は誰でも見やすい場所に掲示されている。災害時に備えて、米、水、カセットコンロ、七輪、炭等が備蓄されている。8月31日に夜間の避難訓練を計画している。		消防署や地域の協力を得ながら、避難訓練を実施することを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量は併設する老人保健施設の管理栄養士にアドバイスをしてもらい献立の時、目ばかりで大まかに把握している。糖尿などの食事制限が必要な方についても管理栄養士に相談し、調理方法等をアドバイスしてもらっている。水分補給は1、500ccを目安としている。月1回体重測定を実施しており、体重が増えたとおやつや運動量の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングに入居者と一緒に調理ができる台所、大きな窓からは自然の移り変わりを見ながら食事ができるテーブル、大きなテレビを囲んでゆったりできるソファがあり、畳のコーナーもある。廊下には要所に大きなソファがあり、そこに座ってみんなを見ている入居者もいた。また、入り口には不穏になった時、昔に一番楽しかった写真を額に入れ飾られるなど、心穏やかに過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の馴染みのタンス、ミシン、家族の写真、テレビ、時計、ソファ、観葉植物、自作のクッション、仏壇等が持ち込まれている。自宅の配置に合わせて家具の配置を決めている入居者もあり、居心地良く暮らせる居室になっている。家族も自由に宿泊できる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。